

平成23年8・9月 高野博町議の活動報告

町の義援金は10月から支給されます

町に寄せられた義援金のうち約2億2千8百万円を死亡行方不明者に7万円、全壊に7万円、大規模半壊に5万円、半壊2万円、震災孤児に1万円、母子・父子世帯に1万円が支給されます。

支給方法は口座振込で、10月から行うということです。なお、申請はしなくとも良いそうです。

詳しくは、10月号の広報「おながわ」をごらんください。また、チラシも織り込むそうです。



長野県池田町の町民からも義援金が

石油ストーブは慎重にお使いください



「仮設住宅では石油ストーブは使えないの？」という質問が何人もの人から寄せられました。高野町議が町民課長に伺ったところ、「そんなことはありません。気を付けて使ってください。結露も心配ですし・・・」と語っていました。確かに火災や一酸化中毒などにならないように、きちんと消すとか、窓をときどき開けるなど注意して使いましょう。

高野博のフレッシュ便 NO. 28



発行 日本共産党女川町委員会

女川 支部の見解を紹介します

2011年9月25日(日)

携帯 080-6016-3614

1943takano44@mopera.net

ホームページは

<http://peace.sblog.jp/onagawa/>

川崎の方に作っていただいています

県母親大会に参加



9月25日、高野町議は、「放射能から子どもたちを守ろう そのためにも、原発ゼロをめざしましょう」と、壇上から呼びかけました。

玄関網戸設置よかったですね

「仮設住宅の玄関に網戸を」という住民の声。石巻市議の水沢さんから「県が許可」と聞き、町の建設課に県の意向を確認していただき、女川町でも「実施を」と申し入れました。町は既に実施していた方にも制度が適用できるよう県と交渉し、多くの方が「お金が戻ってよかった」と喜んで下さっています。



救援活動に力を



全国から救援物資が寄せられ、可能な限り、どの仮設住宅にも届くようにと、日本共産党やボランティアの「お届け隊」が頑張っています。



9月23日 ボランティアの皆さんの力で、新田地区に高野博事務所をつくりました。

気軽に生活相談を

いかがお過ごしですか。何かお困りの事があれば気軽にまずお電話を下さい。ご一緒にがんばりましょう。 電話は080-6016 3614

あの日、女川原発も紙一重 原発再稼働を許さずと・・・



高野町議は塩釜、大崎、白石など県内各地16ヶ所以上で、あの日、女川原発は紙一重で大惨事をまぬがれたこと、福島事故は「明日は我が身」であり、地震の多発する女川では大事故が心配されると、廃炉を強く訴えてきました。

台風15号被害の調査も

9月22日は清水・新田地区、24日には高橋ちづ子衆議院議員や三浦一敏さんとともに、阿部律子町議の案内で針浜の惨状を視察、さらに宮ヶ崎や石浜の被害調査を行い、被災者を激励して歩きました。針浜は、津波の被害はまぬがれたと思ったら地番沈下に、山津浪の被害です。15軒以上も床上浸水とか、本当にお見舞い申し上げます。